たけうまファンド

設定日	：2011年11月	償還日	：死ぬまで	決算日	：原則、毎月末
収益分配	：ありません	基準価額	：算出対象外	純資産総額	：非公開

※レポートのグラフ、数値等は過去のものであり将来の運用成果等を約束するものではありません。
※レポートでは公開できない数値等が多数存在するため、目盛り等一部の表示を省略させていただいております。

運用実績

※運用開始時の資産を100としたグラフとなっています。
※グラフの歯抜け期間は当ファンド運用担当者のメンタルが死んでいた期間につき運用実績の記録ありません。

＜資産構成比率＞

日本株式	70.5%
海外株式	24.6%
現金（円・$）	4.9%

※比率は対純資産総額比です。

＜純資産総額騰落の要因分析＞

日本株式	-5.8%
海外株式	-3.6%
現金（円・$）	110.7%

※上記の要因分析は当月中の売買を考慮せず（できない）、前月末と当月末の時価総額の差を算出してます。

※上記の要因分析は、実際の純資産総額の変動を正確に説明するものではありません。各市場と当ファンドの運用状況の傾向を知るための参考地としてご覧ください。

＜分配金実績＞

設定来
0円

※永遠のゼロ。成長ないので分配なし。

＜純資産総額の騰落率＞

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-5.0%	-9.0%	-0.9%	1.6%	4.9%	1513.46%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、今後変わる可能性があります。

たけうまファンド　日本株式／海外株式

＜資産構成比率＞

資産	比率
株式	95.1%
現金	4.9%

＜国・地域別組入比率＞

国・地域名	比率
日本	70.3%
アメリカ	24.6%

＜業種別組入比率＞

業種	比率
資本財・サービス	33.16%
一般消費財・サービス	21.17%
金融	13.83%
情報技術	10.58%
生活必需品	6.88%

＜組入上位10銘柄＞

	銘柄名	通貨	国・地域名	業種	比率
1	オカダアイヨン 6294	日本円	日本	資本財・サービス	15.37%
2	ウルトラファブリックスHD 4235	日本円	日本	一般消費財・サービス	12.02%
3	ServiceNow, Inc NOW	米ドル	アメリカ	情報技術	10.58%
4	Tapestry, Inc. TPR	米ドル	アメリカ	一般消費財・サービス	8.68%
5	ディップ 2379	日本円	日本	一般消費財・サービス	8.55%
6	ヒューリック 3003	日本円	日本	金融	8.49%
7	マクニカHD 3132	日本円	日本	資本財・サービス	7.42%
8	ニップン 2001	日本円	日本	生活必需品	6.88%
9	MSCI Inc. MSCI	米ドル	アメリカ	金融	5.34%

＜規模別構成比率＞

時価総額	比率
1兆円以上	33.93%
5000億～1兆円未満	1.25%
1000億～5000億円未満	28.00%
1,000億円未満	36.82%

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。

運　用　実　績

今月の当ファンドは先月に引き続き一桁半ばマイナスの運用収益となりました。苦しい運用環境が続いており運用責任者のたけうまの対応に苦慮しています。

状況としては主力に据えているUFHDとオカダアイイヨンの下落がもうどちらも2か月程度続いています。タペストリーもカプリの買収発表以降ずっと下落しています。このため日米どちらのポートフォリオも苦戦を強いられています。つらい。

これに加えて日経平均が三角持ち合いを抜けて高値をつけた日から日経レバと先物を買い下がっているため、これが壮絶に含み損となってしまい資産の減少以上に満身創痍な状況に陥っている要因となっています。明らかに金利が悪さしている状況ですが、次の決算はいいはずだから高値抜いてくるだろうといつもだったら切っているラインを割れても保持し続けてしまったのが全ての敗因です。レバ取引は値動きに従う。来月はこの敗戦処理と向き合わなければなくなりそうです。

現物ポジションのトレードとしてはシンメンテを大幅に減らしました。安定成長ながら元から爆発力にかけるビジネスモデルで今流行りのシクリカルバリューよりも常に割高感があるという位置づけなので、PF全体のバリュエーションを落とす目的のため売却となりました。まぁその後あがってるんですが…。ちなみに元はとても安定している銘柄だったのですがコロナ禍以降は一変してボラティリティが大きい銘柄となったのですが一体誰が売買しているのか本当に謎です。優待がもらえる分は残してあるので優待ポートフォリオに移管する予定です。

また米国株ではMSCIを削減しています。成長ドライバーだったESGとマルチアセットポートフォリオに黄色信号が出ているので。成長ストーリーは崩れていませんが今までと同じバリュエーションは無理でしょう。減らした分はタペストリーの買い増しに充てています。残りも売って円転して日本株か待機資金にする計画でいます。

自分のトレーディングが儲からないのは一時は儲かっても失敗したらそこでやめてしまうからなので、だったら最初からやるななんですがどうしても欲の皮が突っ張っていて隣の芝生が青く見えてしまうこの性格どうにかしたいです。仕事をまじめにやっていると引けまで株を見ないこともザラなので現物で地味な銘柄でEPS成長と配当成長の恩恵を受けながら放置しているスタイルを忘れないようにしなければなりません。いやホント何回目の自戒だこれ…

難しいグローバル経済にずっとアンテナを張っているのは難しいので体感する経済を温度感をスケールアップするだけでなんとかなる小型株ですね。基本。基本が大事です。勝って兜の緒を締めよ。勝ってないけど。

また来月の下旬からは決算期で3月期決算企業の中間決算が出てきます。前回1Q決算よりも業績修正は出てくるはずですし、足元でのインフレ対応の巧拙の差も如実に出てくるはずです。中間決算がよければ冬季賞与の上振れもあり、その流れで年明けの賃上げの話にも影響してくるでしょう。国内の消費が悪くなる懸念は雰囲気くらいと思ってるんですが（だから指数取引握りっぱなしだった）、決算の通過でそのあたりがどうなるかもしっかり確認していく必要があります。

また来月の下旬からは決算期で3月期決算企業の中間決算が出てきます。前回1Q決算よりも業績修正は出てくるはずですし、足元でのインフレ対応の巧拙の差も如実に出てくるはずです。中間決算がよければ冬季賞与の上振れもあり、その流れで年明けの賃上げの話にも影響してくるでしょう。国内の消費が悪くなる懸念は雰囲気くらいと思ってるんですが（だから指数取引握りっぱなしだった）、決算の通過でそのあたりがどうなるかもしっかり確認していく必要があります。

株式投資は、値動きのある資産（外国株式は為替変動リスクもあります。）に対し投資をするため、資産残高は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。つらい。

■当資料は、当ファンド運用担当者が運用状況を報告する手段としてブログ等の代替として作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来にわたってなんら保証するものではありません。